218人目

上矢作町下１班

石川　右木子さん（45歳）

□プロフィル

イチゴやトマト以外に大豆やコンニャク芋、エゴマなどを栽培。一昨年からイチゴ狩りを始める。夏にはトマトやトマトジュースなどをセットにした、お中元向け商品が人気。

最近はカメラ好きの中学生の娘と、趣味の山登りをしながら写真も楽しんでいる。

▲イチゴの状態を確認する石川さん

安全でおいしい食べ物を

農業で地域課題に取り組みたい

薪ストーブが灯されたビニールハウス内はとても温かく、イチゴの葉が元気よく生い茂る。上矢作町で冬はイチゴ、夏はトマトなどの農園を営む石川右木子さん。今は2万5千本のイチゴの、出荷の準備で忙しい。

山登りやウインタースポーツが趣味で、結婚後も夫婦で世界を回っていた。そんな中、たまたま見た「トマト農家になりませんか」とうチラシに惹かれ、農業を始めようと決意。夫の実家がある上矢作町に定住することを決めた。「きっかけはスローライフに憧れたからだけど、始めてみると奥が深く、作物を栽培することが好きな自分に気付いた」と話す。

周りの温かい声に支えられ、トマト農家として、充実した日々を送る中、夫が事故で突然他界。人生が一変した。

残されたトマトをどう栽培していけばいいか悩んでいると、同じ趣味の山仲間たちが手伝ってくれた。義理の父親も仕事を辞め、石川さんを支えてくれた。

栽培技術の向上はもちろん、土作りからこだわり、自家製の堆肥を作った。安全でおいしい農作物を栽培をするにはどうしたらいいか、探求心を忘れず向き合ってきた農業経営。ふと周りに目を向けると、地域課題も見えてきた。

上矢作町の山の8割は人工林で手を入れないと荒れてしまう。水源がある山が荒れると、その恩恵を受けている農業も成り立たなくなる。そこでイチゴのハウスを拡大する際、薪ストーブを導入し、山の手入れで発生した間伐材を使うことにした。間伐材を使うことで、地域にお金を循環させることにもつながる。

「農業を通して、林業や地域、環境の問題を発信していきたい」と語る。現在は新たにスイーツの販売計画も進めている。これからを語る穏やかな表情には、農業や地域に対する愛情が溢れていた。

10/9 笑顔で健康な生活を 2022健幸フェスタinえな

まきがね公園で、３年ぶりに健幸フェスタが開催され、スポーツ体験や展示などを通して健康について学びました。今回は、小学生を対象としたスポーツ能力測定会も初めて開催。参加した太田愛渚さん（岩村町）は「体のバランス力が良くてうれしかった」と笑顔で話しました。

10/9 発酵食品の魅力を伝える 44人の発酵食品ソムリエが誕生

本年度初めて行われた発酵の学校の12回の講座が終わり、修了式が開催されました。修了式では、同学校の小泉武夫校長から受講生に発酵食品ソムリエ認定証が授与されました。受講生の水野琴美さん（明智町）は「学んだことを多くの方に広めたい」と感想を述べました。

10/22・23 お城ファンが集結 全国山城サミット恵那大会

第29回全国山城サミット恵那大会が２日間にわたり開催され、会場となった岩村町と明智町を中心に、延べ２万人のお城ファンたちでにぎわいました。岩村城跡に登った成瀬哲也さん（岩村町）は「歴史に触れる良い機会になりました」と話しました。

10/17 秋霖の町屋で琵琶の語り 「秋月の宵　筑前琵琶演奏会」

観光大使で筑前琵琶奏者の田中旭泉さんによる演奏会が行われ、約70人の観客が筑前琵琶の音色と語りを楽しみました。20回目の節目を迎えた本年は、初めて開講した市民講座「子ども琵琶倶楽部」の４～12歳の受講生たちが旭泉さんと一緒に演奏を披露しました。

11/13 12年ぶりに日本で開催 世界ラリー選手権（WRC）

WRCの最終戦、フォーラムエイトラリージャパン2022が愛知県と本市を含む岐阜県で開催されました。ラリーカーが移動するリエゾンでは、市民やファンなど多くの人が沿道に詰めかけ、間近を通り過ぎるラリーカーに手を振ったり声を掛けたりして応援をしました。

10/29 日本の伝統芸能 能と狂言を楽しむ

３年ぶりに、いわむら城址薪能が開催されました。仕舞「羽衣」では、重要無形文化財総合指定保持者の玉井博祐さんが天女を演じ、観客を引き付けました。その他、舞囃子「放下僧」や狂言「雷」、能「巴」の上演もあり、約200人の観客は、伝統芸能の奥深さを堪能しました。